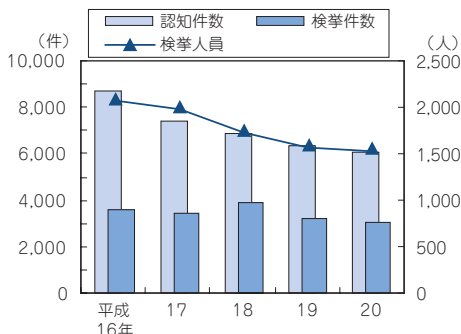


犯罪・火災に関する主な指標

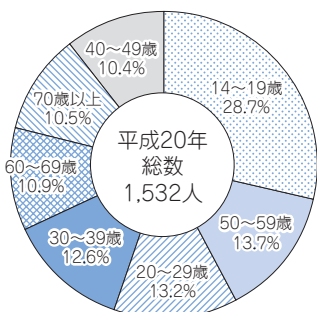
指標名	鳥取県	順位	全国	年次
* 刑法犯認知件数 (人口1万人当たり)	100.9件	19	142.4件	20
刑法犯検挙率	50.2%	4	31.5%	20
* 出火件数 (人口1万人当たり)	4.35件	25	4.10件	20

刑法犯認知・検挙件数及び 検挙人員の推移



資料 県警察本部「犯罪統計書」

犯行時の年齢階級別刑法犯 検挙人員の割合



資料 県警察本部「犯罪統計書」

(犯罪)

平成16年から平成20年までの犯罪統計書による刑法犯認知・検挙件数及び検挙人員の推移を見ると、認知件数及び検挙人員は、減少傾向となっています。

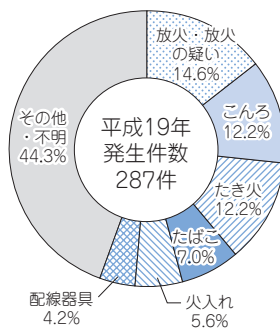
また、平成20年の刑法犯検挙率は50.2%で、全国4位となっています。

平成20年の犯行時の年齢階級別刑法犯検挙人員の割合を見ると、「14～19歳」の占める割合が最も高く、次いで「50～59歳」「20～29歳」の順となっています。

(火災)

平成19年の消防防災年報による原因別火災発生件数の割合を見ると、「放火・放火の疑い」の占める割合が最も高く、次いで「こんろ」「たき火」の順となっています。

原因別火災発生件数の割合



資料 県消防課「消防防災年報」

刑法犯 罪種別認知件数の推移

単位：件

年次	認知総数	窃盗犯	知能犯	粗暴犯	風俗犯	凶悪犯	その他
平成16年	8,688	6,263	517	233	71	33	1,571
17	7,382	4,986	613	256	61	30	1,436
18	6,838	4,610	558	239	48	25	1,358
19	6,261	4,299	348	214	67	25	1,308
20	6,005	4,360	317	177	41	24	1,086

資料 県警察本部「犯罪統計書」

(交通事故)

平成16年から平成20年までの交通年鑑による交通事故の発生件数と死傷者数の推移を見ると、発生件数及び死傷者数ともに減少傾向となっています。

平成20年の交通事故の状態別死傷者の割合を見ると、「自動車運転中」の占める割合が最も高く、次いで「自動車同乗中」、「自転車運転中」の順となっています。

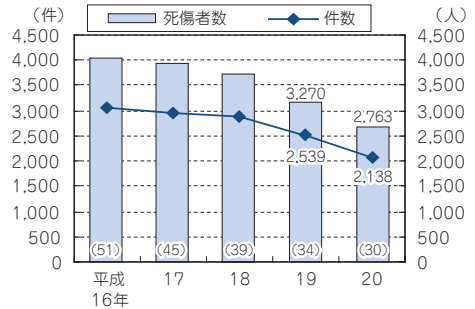
(労働災害)

平成16年から平成20年までの鳥取労働局の資料による労働災害死傷者数の推移を見ると、死傷者数は減少傾向から平成19年に増加に転じたものの、平成20年は521人と再び減少に転じています。

交通に関する主な指標

指標名	鳥取県	順位	全国	年次
* 交通事故発生件数 (人口1万人当たり)	35.9件	4	60.0件	20
* 交通事故死傷者数 (人口1万人当たり)	46.4人	4	74.4人	20
* 道路交通法違反取締件数 (人口千人当たり)	64.0件	27	66.4件	19

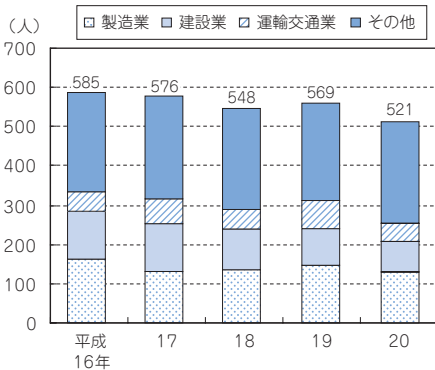
交通事故の発生件数と死傷者数の推移



※() 内は死者数

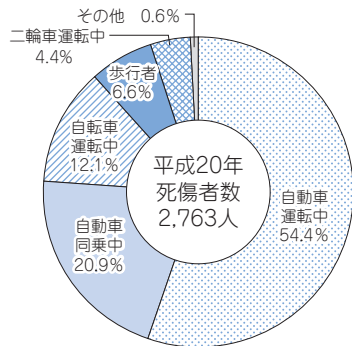
資料 県警察本部「交通年鑑」

労働災害死傷者数の推移



資料 鳥取労働局

交通事故の状態別死傷者の割合



資料 県警察本部「交通年鑑」

交通事故の年齢別死傷者数

単位：人

年次	総数	幼児	小学生	中学生	高校生	その他の少年	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
平成16年	4,043	88	106	64	113	174	853	682	551	628	396	388
17	3,950	78	121	69	111	140	835	655	563	568	413	397
18	3,737	81	122	42	99	142	733	667	486	591	378	396
19	3,270	57	95	51	79	123	616	534	444	539	379	353
20	2,763	50	78	39	75	88	521	479	387	395	329	322

資料 県警察本部「交通年鑑」